

# ハレとケ

長久手市文化の家情報誌

2023/07 ▶ 2023/09

Vol.  
16



25<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY

長久手市文化の家  
開館 25 周年記念号



03



03

### 文化の家アーカイブ展 ～25年のあゆみ～

文化の家開館25周年を記念して、これまでのあゆみを館内を歩きながら体感する特別展。美術系創造スタッフ小西祐矢と高野葵が、来館する皆様に感謝の思いを込めて制作します。

日時 7月1日(土)～7月30日(日)

### まちだ商店街悲恋物語

02



現演劇系創造スタッフ大脇ぱんだと、旧情報系創造スタッフ藤島えり子が繰り広げる、町内会を舞台にしたアップテンポな討論劇コメディ。新旧創造スタッフ2人が織りなす演劇とはいかに



日時 6月23日(金) 20:00  
6月24日(土) 11:00/16:00  
6月25日(日) 13:00

### 創造スタッフ企画紹介!

01

### 夏休みオリジナルファミリーイベント

ホールの裏側は君の知らないことでいっぱい!! ブラックトミーと創造スタッフたちが文化の家を大冒険! 変形する客席、どこからともなく聞こえてくる謎の声……。突如、魔界に迷い込んでしまったブラックトミーたち。そこに現れる魔物に、ブラックトミーたちはアートで立ち向かうことができるのか!?

SHO  
W見学

日時 8月24日(木) 14:00  
会場 森のホール(全席自由)  
料金 無料 ※0歳から入場可能  
申込 7月8日(土)  
※整理券はお一人様4枚まで

# 創造 スタッフ

04



### 朗読と音楽シリーズ番外編「怪談屋敷」 脚本：小西祐矢 (美術系創造スタッフ)

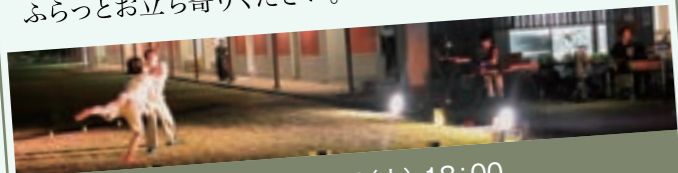
名作を即興演奏付きで朗読する人気シリーズの番外編! 今回は、夏にぴったりなこわ〜い話。どんな妖怪やお化けが出てくることやら……。演劇系・音楽系創造スタッフが、いろんなお話を臨場感あふれる朗読と即興の生演奏でお届けします。今年の夏は「怪談屋敷」で肝を冷やして暑さを乗り切ろう!!

日時 7月22日(土)  
11:00 / 14:00  
会場 光のホール  
定員 各回80名 ※推奨年齢4歳以上  
料金 500円  
チケット発売中!



### トワイライトダンス

舞踊系創造スタッフ林友里菜出演。夕暮れ時に、涼しい風とともに芝生の上で美しいダンスをお楽しみいただけるスペシャルな企画! 観覧無料、申込不要のため、ぜひふらっとお立ち寄りください。



日時 9月30日(土) 18:00  
会場 2階屋外スペース

### テーブルゲーム

美術系創造スタッフ高野葵によるテーブルゲームコーナー! 昨年から文化の家受付前に設置している、大人気コーナー! 今年も新しいゲームが続々登場するのでみなさんお楽しみに!



06

### 男女共同参画啓発事業/演奏付き講演会

### 愛と青春の名曲 ～すべての曲は愛から生まれた…かもしれない～

今をときめく音楽ライター小室敬幸氏と、音楽系創造スタッフ小田智之と内田一晟が、有名なクラシックからヒットしたポップスまで様々な曲を演奏しながら、その曲の裏側に隠れたさまざまな「愛のカタチ」に迫ります。すてきな音色とともに懐かしのあの頃を思い出しながらお楽しみください。

日時 6月23日(金)  
14:00  
会場 風のホール



07

## MEMBER



大脇ぱんだ  
演劇



林友里菜  
ダンス



小田智之  
作曲・鍵盤



小西祐矢  
美術・デザイン



高野葵  
美術・デザイン

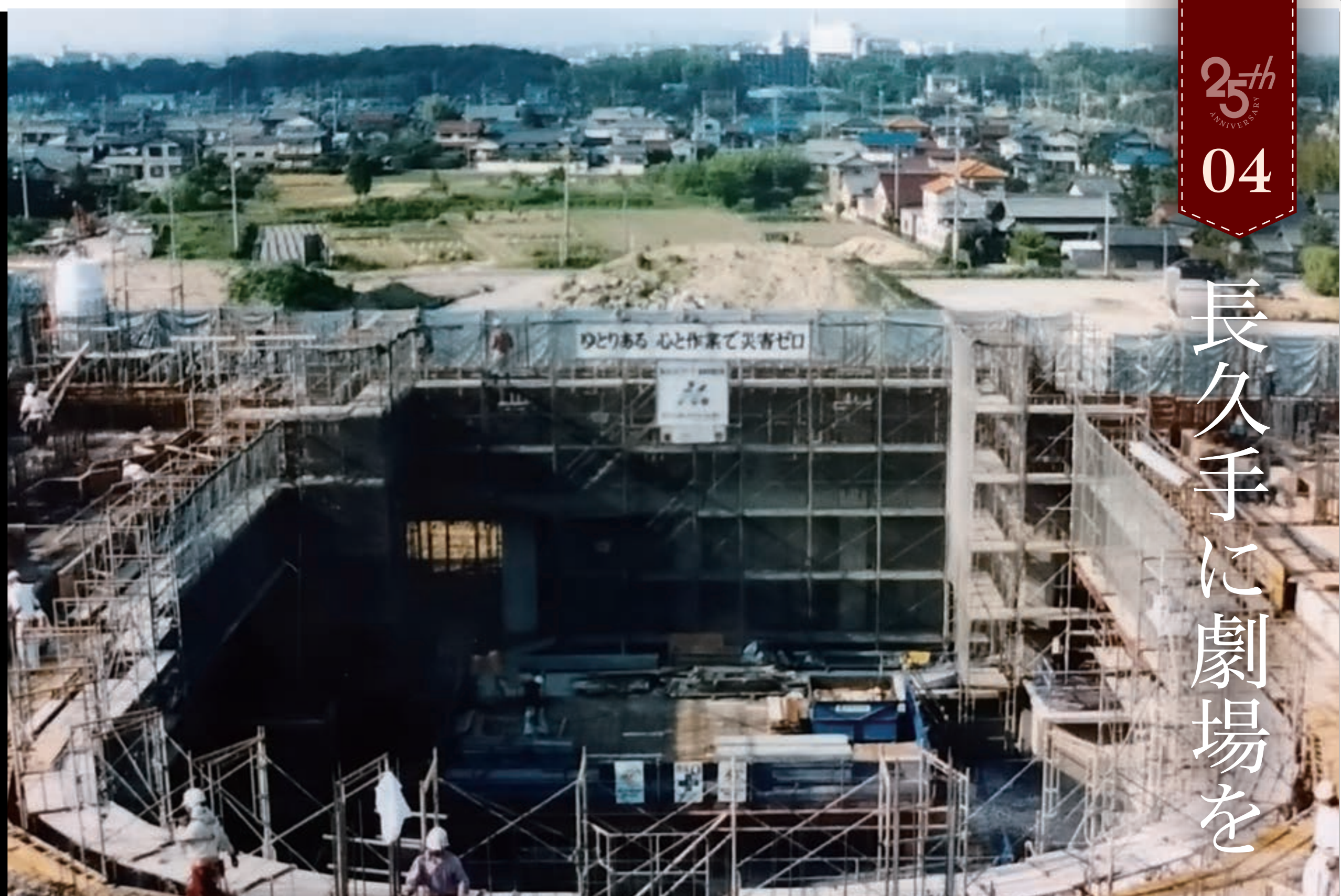


## NEW MEMBER 内田一晟

うちだ いっせい

みなさん、こんにちは! 内田一晟と申します。この春から創造スタッフの仲間として活動させていただくことになりました。3年前に名古屋音楽大学大学院を修了して現在、打楽器奏者として活動しております。芸術や文化も大好きなので関われることに大変嬉しい気持ちです。長久手市文化の家では自分が今までやってこなかった演奏スタイルや音楽ができるように、エッジに立って「挑戦」していきます!

## 長久手に劇場を



1998年7月15日、  
長久手の町に劇場が開館

当時、近隣の市町では文化会館が次々と建てられる中、長久手にはなかなか劇場ができませんでした。町のシンボルとなる文化施設の存在が強く求められるなか、ようやく開館したのが文化の家だったのです。文化の家という名称は、「都心部ではなく地方で文化活動を」というフランスの「文化の家運動」にちなんでつけられたものです。そして、市民が集う家になってほしいという意味も込められています。

1990年代、たくさんの文化施設が建設されるなか、いわゆるハコモノといわれるような、中身の伴わない公共施設に対する批判も巻き起こりました。そのような中で、文化の家「市民の家」となることを目指し、ハードとソフトの両面を充実させることを目標にしました。計画は劇場の専門家も交えて進められ、建設と同時に文化政策の指針となる『文化マスタープラン』を策定しました。当時は国による文化芸術振興基本法もまだ制定されていない中で、全国的に先駆けて文化ホールの専門性に言及した本プランは、後の2006年に総務大臣賞も受賞しました。

文化の家を担当する課名も「文化の家」となり、文化の家課は長久手の文化芸術を一手に担う存在になりました。課内には施設を管理する「管理係」のほかに、文化芸術事業を担う「事業係」が設置されました。開館当初から現在に至るまで、毎年数多くの自主公演を実施しており、文化の家だけに留まらず、長久手全体に文化芸術を届ける役割を担っています。

コロナ禍を経て、2022年度には生涯学習課として再編され、より幅広い長久手の文化活動を担う場所になりました。25年の時間の積み重ねを糧に、文化の家はこれからも文化芸術が溢れる豊かな場所であり続けることを目指していきます。

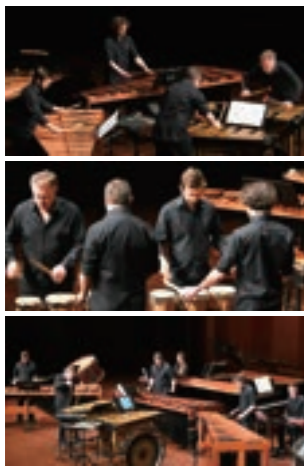


①②③ 森のホール  
④ ガレリア  
⑤ 起工式

名演への招待シリーズ21

# コリン・カーリー・グループ オール・ライヒ・プログラム

Colin Currie Group  
All Reich Program



コリン・カーリー・グループ  
Colin Currie Group

2006年、BBCプロムスでのスティーヴ・ライヒの70歳を祝う《ドラミング》公演のために、コリン・カーリーが卓越した技術を持つ奏者を厳選して結成したアンサンブル。彼らによるライヒの音楽は「今まで聴いた中で最高」とライヒ本人から絶賛されている。近年は、ライヒがコリン・カーリーのために作曲した《2台のピアノと2台のヴィブラフォンのための》カルテット》(2013)や《トラベラーズ・プレイヤー》(2020)の初演を行うなど、世界中の主要ホールやフェスティバルから出演オファーが相次いでいる。

## 開館25周年！ 文化の家は ”新しい歴史“を創り出す!?

徳川家康軍と羽柴秀吉軍が刃を交わした”小牧・長久手の戦い“。しかし、実は両軍とも、戦いを避けるべく密談を重ねていた……。

数々の演劇公演を繰り広げてきた長久手市文化の家。その文化の家が25周年を飾るべく企画した演劇公演は、ここ長久手市の歴史を題材とした戦国創作劇です。

今年、大河ドラマ「どうする家康」が放映され、東海地方にはなじみ深いエリアが多々登場し、そのたびにほくそ笑んでいる方も少なくはないのではないのでしょうか。そして、ここ長久手市も、家康を語るには外せない土地であることは周知の事実。そこで文化の家では、「どうする家康」で、小牧・長久手の戦いが取り上げられるであろう時期と同じくして、小牧・長久手の戦いを題材にした演劇を企画！しかしそこは文化

の家、一筋縄ではいきません。戦国創作劇でありながら、派手な殺陣やほとばしる血しぶきは一切登場せず、家康と秀吉それぞれの軍議を題材に、武将たちの心理がじわりじわりと描かれていきます。ストーリー展開には長久手市生涯学習課文化財係の学芸員、川出康博の監修のもと、それぞれの武将の性格なども反映させた、見所満載の演劇です。

作・演出には、劇団あおきりみかんの鹿目由紀氏、出演者も個性豊かなメンバーを迎え、歴史ファンだけではなく、演劇ファンも目が離せない企画となることは間違ありません！

2023年9月、長久手市文化の家に”新たな歴史“が刻まれようとしています。その幕は今、切つて落とされた……。

**作・演出**  
鹿目由紀 (劇団あおきりみかん)

**出演**  
大脇 ぼん (劇団日級遊撃隊)  
熊蓋 御堂正之  
すめがと とも (てんぷくプロ)  
多喜山 秀一 (長久手市劇団座★KINGAKUTE)  
二宮 信也 (長久手市劇団座★KINGAKUTE)  
藤島 翔輔 (星の女子さん)  
松井 真人 (劇団あおきりみかん)  
山形 龍平 (タツノオトシドコロ)

長久手市文化財係学芸員  
川出康博 氏

大河ドラマ「どうする家康」も放送され、注目を集めている小牧・長久手の戦い。家康と秀吉の唯一の直接対決で、長久手で4万人近い軍勢が激突したと言われています。しかし、戦いは何も刀や槍、鉄砲だけで行うものではありません。家康も秀吉も味方を増やそうと「言葉」による戦いも実際に繰り広げられていました。味方になれば領地をやる、敵には「義」がないと「言葉」で戦っていたその様を想像しながら、ぜひこの演劇をご覧ください。

## コリン・カーリー・グループ公演レポート ミニマル音楽最高峰の演奏が 長久手を揺るがした!

4月26日、長久手市文化の家開館25周年記念企画第一弾『コリン・カーリー・グループ《オール・ライヒ・プログラム》』が開催されました。

長久手公演は”これぞライヒ“という作曲者のエッセンスが詰まった名曲ぞろい。まずは、ライヒの原点とも言える《木片の音楽》や《ピアノフェイズ》。フェイズシフト(ずらし)の真骨頂でその奥義に脳内のシナプスがぐわぐわに刺激されます。一転してライヒの美学を結晶化したような作品である《マレット・カルテット》は、その洗練の極みに会場の空気が浄化されました。《ドラミング・パート》は、プリミティブさとイリュージョン性が融合した同グループの十八番で、異様なまでの躍動感が身体全体に共振してトランス状態に。そしてラストを飾る《セクステット》は、ピアノ2台、シンセサイザー2台、マリリンバ3台、ヴィブラフォン2台、バスドラムなどの打楽器を6人が掛け持ちする超難曲です。全体を覆うシリアスな楽想の中にもライヒならではの技法が

満載で、クライマックスには会場全体が昇天するような恍惚の光を浴びました。鳴り止まない拍手に彼らを選んでアンコールは、不朽の名曲《クラッピング・ミュージック》。会場のボルテージは頂点に達し、コリン・カーリー・グループを”最高“と評したライヒ氏の言葉を皆が噛み締めた瞬間でした。

大盛況にて幕を閉じた本公演。しかし公演の実現には、実に5年もの月日がかかりました。「文化の家にライヒを呼びたい」という強い思いから始まった本企画は、予算面や楽器の工面など様々な交渉、偶然から始まった縁、たくさんの方々の温かいご支援、ご協力……。何一つとして欠けては実現できなかったと感じています。そして終演を迎えた今、その強い思いに間違いはなかったと実感しています。

文化の家は、これからも地域に寄り添いながら、地域と世界をつなげるような公演を実現していけるように精進していきます。

### 長久手市文化の家25周年記念公演 どうした長久手 ～九人の武将幻想伝～

日時	9月9日(土) 15:00★ 9月10日(日) 11:00★ / 15:00☆
会場	森のホール ※全席自由
料金	フレンズ 1,500円 一般 2,000円 学生 1,000円 小中学生 無料 ※未就学児入場不可
発売日	フレンズ 7月1日(土) 一般 7月8日(土)



チケット申し込みはQRコードから

#### 各種イベント

- ☆ 9月10日(日) 15:00終演後  
「アフタートーク」  
ゲスト：岩崎城歴史記念館学芸員 内貴健太氏  
小牧・長久手の戦いの際に、織田家が時間稼ぎをしたことで家康を有利に導いた岩崎城。その岩崎城から学芸員の内貴氏をお迎えし、長久手市学芸員の川出康博氏とアフタートークを行います。歴史ファンの方も是非ともご参加ください!
- ★ 9月9日(土) 15:00 / 10日(日) 11:00 終演後  
「小牧・長久手の戦い～クイズの巻～」  
小中学生にも楽しんでいただける歴史クイズを開催。授業で学んだ武将と照らし合わせて楽しんで面白いかも!?

大河ドラマ「どうする家康」で大活躍している徳川家康。彼の身長は何cmだったでしょう?  
①159cm ②165cm ③173cm  
※ヒント:当時の男性の平均身長は155cmくらいだったそうですよ。  
▶答えは10ページへ

長久手市文化の家 開館25周年記念公演

# どうした長久手

～九人の武将幻想伝～

25th ANNIVERSARY  
01

長久手市文化の家開館25周年記念公演  
**長久手の音を紡ぐ**  
川上ミネ ピアノコンサート



**川上ミネ** Mine Kawakami  
長久手市生まれ、ピアニスト・作曲家、県立明和高校音楽科・ミュンヘン国立音楽大学・マドリッド王立音楽院卒業。日本、スペイン、中南米各地の情景を色彩豊かに音で表現する。NHKの番組音楽を多数担当。世界の名だたる大聖堂や寺院で演奏会を開催している。愛地球博「アニメ・モリゾーとキッコロ」のテーマソングと音楽制作を担当。現在はサンチャゴ・デ・コンポステーラ(スペイン)と京都を拠点に演奏・作曲活動を行う。

**生田創** So Ikuta  
1995年阪三光に入社(音響)、1999年より長久手市文化の家にて企画制作担当。これまでに長久手国際オペラ声楽コンクール、音楽フェス「おんぼく」、アウトリーチ「であーと」など、数多くの事業を手掛ける。2021年より東京大学先端科学技術研究センターと連携し「Nagakute Nature-Centered Project(NNCP)」を立ち上げる。愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋大学、南山大学、ステージラボ(財団法人地域創造)等で講師を務める。2023年より長久手市文化の家館長。

表紙・特集ページ写真：堀池典隆 場所：合同会社つむぎて開場

**長久手の風景や音、香りあふれる**  
**”ミネ活“で25周年を寿ぐ**  
文化の家開館25周年を記念する川上ミネピアノコンサートが間もなく開催。長久手出身の彼女は今回、当地をテーマにした曲の数々を届けてくれます。取材日には幼少期を過ごした愛知県立芸術大学旧教員官舎や合同会社つむぎてなど市内を巡り、記憶も創作熱も刺激された様子。文化の家新館長に就任した生田創が、故郷やコンサートへの想いを尋ねました。

**生田** 劇場というのは動かないですが、いろんな人がやってきます。一方、ミネさんは自分からいろんな場所に行く、動く劇場ではないかと。お名前のミネはドイツ語の「吟遊詩人(Minnesinger)」に由来しているそうですね。まさにミネさんそのもので、「Mine」に愛という意味があるのも頷ける。名前と人生の結びつきを考えたことはありませんか。

**川上** 人生はクイズのようなところがあって、若い時はわからないですよ。なぜ自分は吟遊詩人という名前なのか。後からわかるクイズだから、長く波乱万丈の道を歩んできた気がします。結果的に自分が今どこにいるのか、後ろを見られるようになりました。

**生田** 自分も創(そう)という名前を気にすることがあって、今の仕事の創造性を大事にしなければいけない。父が付けたんですけど、創世記に由来していて話がデカ過ぎる(苦笑)。考えさせる問いのようなものが名前にはありますよね。

**川上** お父様の予言どおり創造主になっていないじゃないですか！

**生田** (苦笑)。約60カ国の訪問は音楽活動とプライベート合わせて？

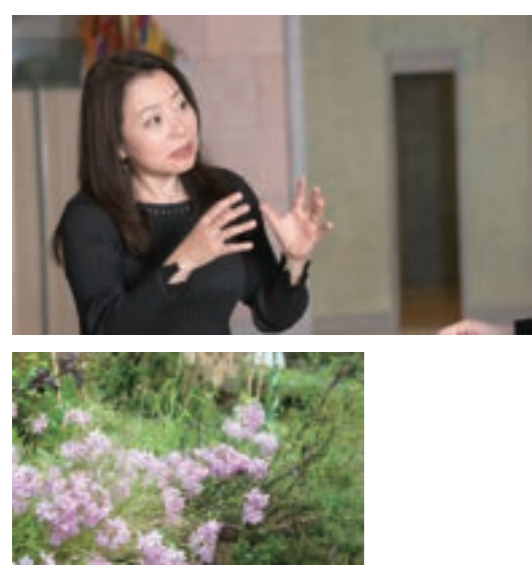
**川上** 正直言うと、まず音楽活動という意識がなくて。これはミネ活動、ミネ活なんです。

**生田** ミネ活!!

**川上** ミネ活をするうち気づいたら60カ国に行っていた。3歳で始めたピアノを止めなかっただけで、音楽家だとも思っていない。表現者ではあるかもしれないけど、絵を描くのも好きだし、あまり考えていないんです。

**生田** 25周年記念の冠に思うところはありますか。

**川上** 種まきになったらいいですよ。私は今、長久手にしかないメロディみたいなものを頑張ってる。それが種になって、誰かが絵を描いたとか味噌を熟成させたとか(笑)、たくさん花が咲きかけになればいいなと。



大きな花火が打ち上がったオシマイというのには長久手に似合わない。みんな土を耕し、種をまき、草をむしる。それが長久手の市民性、特性です。私もその一員になって盛り上げたいです。

**生田** 曲やステージングの構想は？

**川上** 1曲1曲が1幕1幕になったらいいなと思ってる。長久手で久しぶりにアカシアの葉を見たんですよ。その香りも手触りも何十年ぶりなのに、誰よりも知っている感覚があった。例えば、その体験から1曲書きたい。人生の中の見えない景色のようなものを、曲に合わせ幕にしていきたいと考えています。

**生田** この公演は長久手の未来にどうつながるとイメージしますか。

**川上** 何かをじっくり聞こうとはなかなかならない今の時代、ゆったりした時間を提供することで一人ひとりに変化が

長久手市文化の家開館25周年記念  
**25th祭り開催!**

文化の家アーカイブ展  
～25年のあゆみ～

文化の家の25年間のあゆみを館内を歩きながら体感していただける特別展です。今しか見られない25年間の思い出をのぞきにきてください。

期間 7月1日(土) から 7月30日(日)

**ながくてマルシェ**

“ながくて”をキーワードに集まったモノ・ヒト・フードが大集合。あなたの知らない街の魅力に出会える文化の家「ながくてマルシェ」が初開催!

日時 7月15日(土) 11:00～18:00  
7月16日(日) 10:00～15:00

**ART SHOP**  
～世界でひとつのアートなお買い物～  
文化の家 × 愛知県立芸術大学

長久手市文化の家と愛知県立芸術大学のコラボレーションでアートショップ vol.2 がオープン! 世界で1つのアートなお買い物をお楽しみ頂けます。

日時 7月15日(土) 10:00～18:00  
7月16日(日) 10:00～16:00



上： 曲作りに向け、ふるさとである長久手を散策するミネさん。写真は市内、つむぎて開場にて。



館長はじめ文化の家スタッフ一同でコンサートを作り上げます。

あればいいですね。お父さんのために美味しいカレーを作ろうとか、週末は子どもと出かけようとか、誰かの動力になれば結果として未来の何かにつながるかもしれない。長久手の心臓部である文化の家がさらに人々の集う場所になる、それが未来だとすれば、そのためにもできることを私も惜しみなく尽くしたいです。

(文 小島祐未子)

**チケット発売中!**

長久手市文化の家開館25周年記念公演  
**長久手の音を紡ぐ** 川上ミネ ピアノコンサート

日時 7月15日(土) 開場 14:30 / 開演 15:00  
会場 森のホール  
出演 川上ミネ (ピアノ)  
料金 フレンド 2,500円  
一般 3,000円  
学生 1,000円

チケット申し込みはQRコードから



劇作家・俳優  
第8回 佃典彦 Tsukuda Norihiko

## えんとゆかり

このコーナーでは文化の家ゆかりのアーティストを紹介します！

### 出会いと付き合い

どうも、名古屋のミラーマン佃です。長久手市文化の家との出会いについてコメントを下さいと言われて一生懸命思い出そうとしています。長久手市劇団・座☆NAGAKUTEの講師を務めて結構な年数になっています。覚えているのは「佃さんは長久手に縁があるので座の講師をお願いします」と言われたこと。「縁」というのは僕が長久手高校の卒業生だからです。1982年卒業ですね。この頃はこの界隈はまだ野っ原で学校の近くには牛小屋と鶏小屋が立ち並び、夏はメチャクチャ臭かったのを覚えています。長久手高校は当時、管理教育の最右翼でしたから学校生活自体に思い入れは全然なく、卒業式の時は本当に清々しました。なので長久手高校卒業生としての「縁」を持ち出されても正直複雑な心境だったのは確かです。しかも僕が座の講師に就任した当時、僕のことを気にいらぬ人がいたりして大変でした。僕の座での最初の演出

作品は「カレー屋の女」という僕の中では代表作の一つ。しかしながらこの作品の内容を巡って座の中が揉めに揉めてどうどう分裂してしまう有様。こりゃ僕には無理だなあって感じていました。ですが、何とか今日まで続けてこられたのは本当に座員の芝居に対する愛情と協力、文化の家の皆さんの尽力のお蔭です。また、僕が所属する日本劇作家協会東海支部との協力関係も素晴らしく、特に「劇王」という短編劇のイベントでは感謝の言葉をどれだけ並べても足りないくらい助けて頂きました。共に全国の演劇状況に一石を投じることが出来たと自負しております。僕の人生において、これほど長久手の街に通うことになるのは高校時代には全く想像していませんでした。僕にとっては長久手市は第二の故郷と言いますか、演劇人生においてもう一つの出発点であることは間違いありません。

## 長久手市文化の家の25年を振り返る

長久手市文化の家館長 生田創

この春より館長に就任した生田創です。文化の家の25年を振り返る、それは一言では表せず、10冊の本にまとめるのさえ難しいほどの膨大なエピソードがあります。私がこれまでに担当した事業だけでも大小合わせて一千以上、関わったアーティストは延べ数千人と考えると、チームとして歩んだ四半世紀は極めて濃厚なものだったといえるでしょう。長久手国際オペラ声楽コンクール、創造スタッフ制度、地域演劇祭、劇玉、おんばく、であーと等、地元アーティストと連携しながら追求した「長久手オリジナル&クオリティ」は、全国に知られる事業となりました。また市民や大学との協働も欠かせない事業でした。これら一つ一つに物語があり、それぞれが解像度の高い記憶として私の心に残っています。こうしてみると文化の家は「ハレとケ」（非日常と日常）、つまり人々の人生の時間を積み重ねた「記憶の家」であり、その価値はかけがえのない遺産といえるでしょう。今、私たちは第一世代のスタッフから新しい世代へとバトンを渡す時期にいます。この価値を受け継ぎ、さらに発展させていくことが、次の25年への重要なステップとなるでしょう。



【背景写真】小学校4年から6年まで通っていた警察署の剣道場の月例会で優勝した時（ハレ）の写真。「礼に始まり礼に終わる」を叩き込まれました。その精神はアートの世界でも不変です。

## ちょっといいですか？

chotto ii desu ka  
このコーナーでは、文化の家事業にいらっしゃったお客様のリアルな声をお届けします。今回は、5月14日に行われた「長久手市インクルーシブアート展 関連ワークショップ ありがとうの町をつくらう」に来てくださったお客様に感想を聞いてみました。



談：雪野あや美さん (19)

Q このイベントにいらっしゃった、きっかけは？

A もともと文化の家にはよく立ち寄っていたのですが、最近「長久手市合唱団ニューセンチュリーコーラスNagakute」に加入したことをきっかけに、さらによく来るようになりまし。今日は自習をしに来たのですが、館内の「飛び込み参加歓迎」の掲示を見て、楽しそうだなと思い参加しました。

Q 参加されてみていかがでしたか？

A 周りの参加者を見ていたら、皆さん材料を活用し、それぞれに工夫されているなと思いました。隣の席の方がモールド動物を作っていて、すごかったです。

Q ご自身のつくられた「町」にはどんな想いをこめましたか？

A 高校時代に学校に馴染めていなかった経験から、学校などの形にとられない、多様な暮らし方ができる町をイメージして作りまし。現在わたしが通っている大学でも、学校へ来ていない子がいます。でも、学校へ行っていないなくても、勉強はできるし、遊ぶこともできる。学校へ行っていないながらも、人格が否定されるようなものではなく、みんながいちばんになれる。だから、学校だけが全てではないんだよ、という想いをこめて、作品をつくりまし。



長久手市インクルーシブアート展  
2023年5月17日～28日 文化の家1F 展示室にて開催

長久手市文化の家 情報誌

## ハレとケ

ハレは非日常、ケは日常を意味します。文化の家は、練習場所となるアートリビング(ケ)と、発表の場であるホール(ハレ)を兼ね備えた劇場です。アートリビングでの稽古の成果をホールで披露する、ケからハレへという文化の家のコンセプトから、「ハレとケ」という誌名が生まれました。

第16号 2023年7月  
発行：長久手市文化の家  
印刷：ラクシル株式会社  
デザイン：田中杏菜  
編集：小島祐未子(家鴨の編集舎)／山本宗由、坂元奈未、水間芽利(長久手市文化の家)

編集後記

25周年記念号はいかがでしたでしょうか。建設当時の写真を懐かしくご覧になった方も多いのでは？ 現在、文化の家では巻頭特集の「川上ミネ ピアノコンサート」をはじめ、演劇公演「どうした長久手」などなど、スタッフ総動員で記念企画の準備を進めております。文化の家の企画は、何から何まで一つ一つ手作り……。舞台裏もお見せしたいほどにドラマに満ちております。この日々を懐かしく思い返す日が楽しみです。記念すべき25年の節目、一度ではとても語り尽くせるものではありません。今回は記念号前編。後編もお楽しみに。

ハレとケ編集担当：水間芽利

## 初のコンサート

リレー連載「ハレとケ」のあわい  
文化の家の職員による徒然なるコーナー vol.16

長久手市文化の家に配属になり、早一年が過ぎました。僕は、文化の家に配属になるまでは、音楽や演劇など、文化芸術に無縁な人生を送ってきまし。今は、演劇や演奏会などに、出演者、舞台監督、音響や照明など、多くの方が関わり、一つの作品を作りあげていることを、日々学ばせてもらっています。

そんな僕に最近、一つ小さな変化がありました。それは、人生で初めてコンサートに行ったことです。これまでも友達から誘われることはありましたが、「人混みが苦手だから」「興味ないからやめとくわ」と毎回理由を付けて断っていました。正直、安くはないチケット料金を払って行く価値があるのかとも考えていました。ですが今回は、せっかくなので家に配属になったし、他の会場も見てみたいで行ってみよう！と、コンサートへの初参戦を決意しました。某有名なアーティストということもあり、会場には数万人もの観客がいました。会場全体がコンサートが始まるのを今か今かと、そわそわしながら待っていました。人混みが苦手な僕はその光景だけで、かなり圧倒されました。

大きな爆発音と共に、アーティストが登場すると、そわそわしていた観客が一斉に歓声をあげ、熱狂的なコンサートが始まります。同じ一つのコンテンツに対して数万人の人が熱狂的になっている光景を見て、「すごい！こんな世界があるんだ！」と思っただ反面、ちょっととした恐怖感みたいなものも感じました。

と会場の雰囲気は飲まれ、手を振ったり声を出したりし、会場との一体感を感じました。この時、「なるほど、みんなが高いチケット料金を払ってまで得たいものは、こういう瞬間なのか」と、ちょっとだけ理解できたような気がしました。

最初は、舞台上のアーティストを見ているだけでしたが、次第に、会場の設備に目が行くようになりまし。無数のライト操作には何人の照明の方が関わっているんだろうとか、舞台監督はこんな広い会場をどうやって把握しているんだろうとか。

中でも一番気になったものは、舞台から一番遠くに設置されているながら、一番アーティストを神々しく照らし出している大きな大きなライトでした。文化の家では見たことがないくらい大きなライトで、広い会場を端から端まで、照らし出した光のパワーにしばらく目をうばわれまし。当然のごとく、観客の視線は常に舞台上のアーティストに注がれます。この大きなライトを見つければ、注目しているのは、自分だけかも！と思ったら、広い会場で自分だけの宝物を見つけた感があり、とても嬉しかったです。

コンサート後に、友達にその大きなライトの話をしたら「そんな舞台設備なんて見てないから分からん」と一蹴され、「だよね」となりまし。初めてのコンサートは、発見が多く、とても楽しかったので、また機会があれば行ってみようかな、なんて思っています。そんな舞台にかぶれ始めた僕の休日でした。

## 岡田慶史

(生涯学習課事務係)



長久手市文化の家  
開館25周年記念

# 25周年 メッセージ募集!

メッセージは  
ここから



長久手市文化の家は、2023年で開館 25周年を迎えました。文化の家にまつわる思い出やメッセージを上記の QR コードからお寄せください。お送りいただいたお客様のなかから、抽選で記念品をお送りさせていただきます。

長久手市文化の家  
2023

## フレンズ

NAGAKUTE CULTURAL CENTER FRIENDS MEMBER'S CARD

フレンズに入ってもっとお得に楽しもう!

### 【フレンズ会員特典】

- ①文化の家自主事業公演チケットの割引
- ②文化の家自主事業公演チケットの先行発売
- ③機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
- ④フレンズが行う文化事業、交流事業への参加



### フレンズとは?

文化の家ではオリジナル企画をはじめ、音楽・演劇・伝統芸能等、いろいろな自主事業を行っています。フレンズ会員になると、チケットの先行発売や割引等のさまざまな特典があります。

【会 費】	個人会員	年額1,500円(10月1日以降に入会の場合は1,000円)
	家族会員	年額1,000円(機関紙・事業案内等の郵送はありません)
	法人・グループ会員	年額15,000円(10月1日以降に入会の場合は10,000円)

【有 効 期 限】 入会后、最初に訪れる3月31日まで。  
 【入会・更新方法】 文化の家1F受付へお申し込みください。

長久手市文化の家  
NAGAKUTE Cultural Center

〒480-1166 愛知県長久手市野田農 201 番地  
お問合せ：0561-61-3411

地下鉄 藤が丘駅  
 リニモ **はなみずき通駅** 徒歩7分  
 車 8分 (徒歩25分)  
 名鉄バス **長久手文化の家北** 徒歩4分  
 ■愛知医科大学病院行き(4番乗り場) ■菱野団地行き(5番乗り場)  
 名古屋長久手IC 車 10分  
 ※駐車場の台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

長久手市文化の家

- 長久手市文化の家 official
- 長久手市文化の家
- @bunkanoie
- @bunkanoie

公式 Web サイト

